

KBS

ケイビーエス株式会社

www.kbsjapan.com

【社内報ナルゲ】

날개(ナルゲ)とは韓国語で翼(つばさ)を意味します。

vol. 46
January 2013

おかげさまで創業 45 周年を迎えました。

故・高仁鳳会長の遺志を継いで…

2012年12月12日午後12時、奇しくも12が並んだその時に、KBSの創業者である高仁鳳会長が他界しました。享年71歳でした。

高仁鳳会長は、第2次世界大戦のさなか、1941年に大阪市で生まれました。戦争が終わり、韓国へ帰国したのもつかの間、今度は朝鮮戦争を韓国で経験し、母を亡くし、兄と別れてまた日本へと戻ってきます。大学を卒業して業界の新聞社に就職後、しばらくして韓国語の印刷をする僑文社を創業。現在の社名であるKBSは、僑文社の頭文字を取ったものです。

以来、印刷物制作の手法が活版、写植、そしてコンピューターを利用したDTPへと変遷していく中で、ほとんどの印刷会社で不可能だったハングルや中国語などの外国文字の印

刷手法を開発、実用化してきました。その功績は、業界でも評価され、数多くの取材や講演依頼を受けました。

2004年に会長に就任して第一線を退いてからは、趣味のビデオカメラを常に持ち歩き、身の回りの出来事を全て記録に残し、インターネットを通じてその活動を公開していました。

今年、KBSは創業45周年を迎えました。電子機器の驚異的な発展によって、誰もが簡単に外国語の印刷物を制作し、印刷できるようになりました。先代はいつも、「挑戦すること」をモットーにしていました。印刷業界が新たな時代に入った今、先代の遺志を受け継ぎ、常に新しいことにチャレンジする企業であり続けると、社員一同心を新たに致しております。

代表取締役 高允男

韓国光州・淳昌そしてハワイ旅行記

会長 高 仁 鳳

2012年10月2日から6日まで韓国・光州へ旅行をした。アメリカへ行くことを考えていたが、体力的にどうかを試すため、先に行きやすい韓国を選んだのだ。行き先は光州を選んだ。ソウルや釜山は何度も行ったことだし、韓国を民主主義に導いた場所を確かめるためだ。それと、淳昌はバンジャ（妻・芳子）の父が生まれた場所。そのルーツがどんなところか確かめるためだ。そして10月18日から23日まで、ハワイへ行った。ニューヨークへ行こうと思っていたが、体力的にハワイにと決めた。



<http://www.inbong.com/2012/gwangju/>

<http://www.inbong.com/2012/hawaii/>

カンジュ・スンチャン 光州・淳昌 への旅

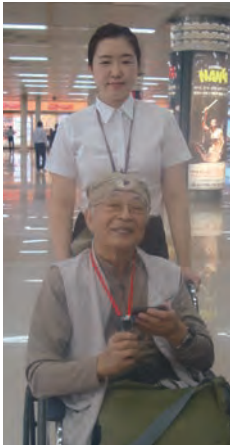
<1日目>10月2日

関空11時発大韓航空でソウル金浦へ。金浦からリムジンでヨンサンへ行き、韓国の新幹線KTXに乗り、光州へ。

光州駅からタクシーに乗って、楽天で予約したヒディングコンチネンタル観光ホテルに着いたのが、午後8時すぎだ。

ホテルの近くはとても賑やかな場所で、若者達が多くにぎわっていた。

夕食は9時すぎ、ホテル近くの食堂に入り、焼肉やビビンバなど頼んで、とても味はおいしいのだが、私は食道が通りにくく、あまり食べることができなかった。



空港では、関空でも、金浦でも車いすの世話になった

<2日目>10月3日

朝6時に起きて、ホテルの外へ出た。朝の散歩だ。すでに飲食街の照明は明るく、若者達がうろうろしている。相当広い繁華街だ。

5.18光州事件関連を見学しようと、ホテルの従業員に聞いてもよくわからない。近くに5.18の中心地、旧道庁があるので、そちらの方へ行こうと街を歩いた。

旧道庁は工事中で入ることはできないが、地下鉄駅の所に、光州5.18記念広報館があって、写真などが、展示されていた。

地下鉄に乗って、金大中コンベンションセンターへ。どでかい建物で、国際会議場になって



金大中コンベンションセンターで

いる。1階に金大中ホールがあって、金大中大統領に関する遺品や写真パネルが展示してあった。

<3日目>10月4日

今朝は近くの川を散歩した。光州川に沿って少し北の方へ行くと、サジク公園の小高い丘があって、それに登った。気持ち良かった。

今日は妻のルーツである淳昌へ行った。タクシーでバスターミナルへ。ここから淳昌行きに乗って、約1時間で着いた。

静かな、あまり大きくない町であった。タクシーに乗って淳昌邑事務所へ行き、聞くとすぐ職員がパソコンで調べ、どのあたりかわかった。タクシー運転手も一緒に探してくれ、義父が生まれた番地を探した。小さな町で、帰りのタクシーがなかなかない。結局、歩いてターミナルまで行った。バスに乗って光州に着いたら、いい時間だ。



ここが私のルーツ



親切な人が、村の長老である「林」さんに会わせてくれた

<4日目>10月5日

朝、川沿いの散策路を北の方へ歩いた。光州公園があった。

光州は今日で終わりだ。あまり、5.18関係が見られなかったのが残念だ。KTXに乗り、ソウル・ヨンサンへ。

ヨンサン駅からタクシーで、予約した宿へ。ところがミョンドンにあるK-POPレジデンスの場所がなかなかわからない。

タクシーの運転手が何とか電話番号を聞き



光州川のほとりで朝の散歩

出し、電話をかけたが、車では行けないところと言う。ロイヤルホテル前でタクシーを降りて、狭い路地を入った飲食店の雑居ビルの4階だ。部屋には入ってまたビックリ。3畳ほどの狭い部屋だ。しかし、ネットはよく繋がる。

<5日目>10月6日

朝早く目が覚めてメールを発信した。ソウルの宿はネットがよく繋がるので、iPadから。

散歩に出て近くの明洞聖堂へ行った。大がかりな工事の最中だ。聖堂の中へ入り、静かに祈りを捧げた。外へ出て裏の方へ行くと、マリア像が立っている。聖堂から、ロイヤルホテルのある道までの、下り階段の横には、聖堂の歴史を物語る写真が展示されていた。

永楽教会方面へ歩いた。そばには中部警察署がある。そこから、少し行くと、幼い時に働いていた散髪屋の跡だ。

昔、遊んだ所を思い出しながら歩いた(つらく働いたところだが、楽しく遊んだことしか思い出せない)。だいぶ歩いたので、明洞聖堂前のコーヒーショップでモーニングを食べた。

宿をチェックアウトして、ロイヤルホテルロビーで読売新聞ソウル特派員の中川記者に会った。いろいろ話しをして、「ハワイもいいですよ」と提案された。金浦空港へタクシーで行きながら、日本大使館前にある慰安婦像のところで車を止めてもらい、写真を撮った。

金浦空港では、関西空港と同じく車いすのお世話になった。これはだいぶ楽だ。

金浦空港から大韓航空に乗って、関空へ。

これで、4泊5日の光州旅行は無事に終わった。次は、アメリカ旅行へ出発だ。



明洞聖堂をバックに



中川記者に会い、カンナムスタイルで有名なサイのCDをいただいた

ハワイ への旅

<1日目>10月18日

午後5時頃、関空に到着。日本航空のカウンターで受付を済ませ、今回も車いすのお世話になった。

いよいよハワイへ、飛行機は飛んだ。18日午後9時20分に関空を出発したが、ホノルルに着いたら、18日午前10時10分だ。18日を2回迎えたことになる。地球の「時間」って不思議だ。

アメリカに上陸したが、入国審査は思ったより厳しくなかった。観光客は日本人が多い。JTBが用意した空港バスに乗って、アラモアナセンターというところで、滞在の間の説明を聞いた。



まず、帽子を買った



これ似合うかな？

ホテルのチェックインもここできた。不明な点があれば電話で聞ける、オリオリフォンを借りた。

ホテルはワイキキビーチに面しているセラトン・ワイキキリゾート・ホテルだ。疲れていたの、ホテルに着いて、すぐ夜まで眠った。

JTBのサポ

ートはずばらしい。ホテルの23階に、JTBお客専用ラウンジ「Luana」があって、ビール、ワインなど飲み放題だ。残念ながら私は飲めない。朝はモーニングサービスのパンとコーヒーが用意されている。

ブルもバスタオルを貸してくれて、自由に使える。プールサイドでは、ハワイの音楽演奏もしていて、フラダンスも見られた。

OLI OLI ウォーカーなど、巡回バスもJTBが一番多いように見えた。ちなみに、このオリオリとは、ハワイ語で「楽しい」という意味だ。

<2日目>10月19日

今日はまず、オリオリスカイウェイに乗った。屋根のない2階バスで、ダイヤモンドヘッド方面へ約30分くらいの遊覧だ。

ホテルに戻ってホテルの広いフロントで休んでいると、ハワイ在住の中村さん夫婦に会った。ふたりとも90歳を過ぎているが、とても元気だ。ハワイに住む以前にはロサンゼルスで住んでいたという。

昼食はホテル内の「吉屋」で日本食を食べ、妻は定食、私は冷やしそうめんを注文。冷やしそうめんは、なんとか食べられた。結局ハワイで食べることができたのは、このそうめんだけだ。

午後はオリオリウォーカーに乗って、ダウンタウンの方へ行った。降りたところはチャイナタウンだった。ワイキキとは全く違う風

景だ。ベトナム語の看板も多い。歩くとすぐ疲れ、暑いので、Cafeの看板があったので、と



韓国人ママ・金インドクさん

にかく入った。私たちを見て、いらっしやいという。アンニョンハセヨというと、同じくアンニョンハセヨと返って来た。

なんと韓国人だ。しかも、幼い時に名古屋に住んでいたの、日本語も上手だ。ご主人がイタリア人で、イタリアン・カフェ「ブルノズ・フォルノ」を経営している。ピピンパブも作りますよ。といていたが、私たちは昼食を済ませていたので飲み物だけを注文した。彼女はコリアタウンの場所も教えてくれた。

ダウンタウンはもっと見回れば楽しそうだが、やっぱり体調がもうひとつで、ホテルに戻って休んだ。結局夜には外へ出ずじまいだ。

<3日目>10月20日



パールハーバーに虹がかかった

今日は真珠湾攻撃があった、パールハーバー記念館の見学だ。朝、6時15分発のバスに乗って、パールハーバーへ向かった。入場するとき手に持てるのは、カメラと水のペットボトルぐらいだ。あとはできるだけ、ポケットに入れる。持ち物に厳しい。

真珠湾というだけあって美しく静かな所だ。1941年12月7日（日本時間12月8日）旧日本軍による奇襲攻撃によって、太平洋戦争が起きた。

その時の事を忘れないために展示し、後世にも伝え、戦争を起こしてはならないことを訴えているのだろう。もっと、詳しく見るべきもの

があるのだが、体がしんどくて、それができなかった。午前中にホテルに戻ってきて部屋で休む。

午後2時頃海へ出た。やっぱり、ワイキキの海はずばらしい。もっと、早くから、海に入ればよかったのに。

ホテルのプールにも入った。気持ちがいい。疲れが吹っ飛んでしまった。海からあがって、飲み物とちよっとした料理を食べようとしたが、喉にひっかかり、だめだ。



ホテルのプールから「アロハ！」

夜は街へ出て、アジアマーケットを少しうろうろした。

<4日目>10月21日

朝7時頃から、ワイキキビーチを散歩した。裸足で砂の上を歩くのが気持ちいい。ホテルから東の方を歩いた。元気なら、ダイヤモンドヘッドまで歩けそうだ。戻るときは街の方を歩いて戻った。

23階のラウンジへ行き、モーニングだ。ペランダから今朝歩いた砂浜を眺めた。

午後2時頃、教えてもらったコリアタウンへ行った。コリアタウンという地名がある訳でなく、韓国人が多く集まって住んでいる場所で、よく見ないとわかりにくい。

何気なく入ったのが、韓国スーパーマーケットで、韓国直送の食材がなんでもそろっていた。

インチョン(仁川)・ハワイ公園があった。韓国人のハワイ移民100周年記念して、この公園がインチョン・ハワイ公園と名付けられたという。

<5日目>10月22日

朝7時頃から、ワイキキビーチを散歩し、続けてプールで泳いだ。ハワイ最後の泳ぎだ。

ワイキキの海はいい。また、このホテルのプールもいい。最高にいい。8時15分ごろには部屋に戻った。9時過ぎにはホノルル空港行きバスに乗らなければならない。よくわからない場所だが、JTB旅行の手配で安心だ。スムーズに手続きが済んだ。

大阪の関空に着くともう23日の午後5時50分だ。帰る時の方が飛行時間が長いようだ。疲れた。すぐ、寝た。



インチョン・ハワイ公園

Uzaktaki dost ülke Türkiye

YOSHIKO OZAWA



イスタンブール旧市街

1996 yılında ilk defa Türkiye’de yaşamaya başlamıştım. Uzun oturmamın ana sebebi ise Türkçe ve Türk tarihine karşı olan ilgilimdir. Üstelik Türk insanların cana yakınlığı ve misafirperverliği, (Özellikle Japonlara karşı olan sempatisi), hayat standardının ucuz olması ve yemeklerin lezzetli olması gibi ‘ yaşamaya dair rahatlığını ’ hissettiren bir çok unsurlar da çekici taraflarıydı. O

dönemde Türkiye’de halen Japon toplumunda unutulmuş manevi zenginliği ve sıcak insan ilişkileri gözlenebilmekteydi. Tabii ki kalkınma da biraz geride kalmış olduğu için altyapı düzensizliği gibi hayatımızda türlü zorluklar da vardı o zamanlar.

Son 10 yılda ekonomik anlamda ve kalkınma konusunda büyük gelişmeler kaydeden Türkiye, şimdi hızlı bir değişim içinde ilerliyor.

İstanbul ve turizm merkezlerindeki emlak ve genel fiyatlar da git gide artmakta. Hızla gelişen İnşaat faaliyetleri sonucunda gökdelenler şehir silüetinin vazgeçilmez bir parçası olmuştur. Siyah duman atarak yola gidip gelen eski dizel arabalar nerede hani, şimdiyse her caddeler son model lüks arabalar ve hatta hybrid ile doludur. Sahillerde yeni yeni açılan modern ve şık kafeler ve barlarında modayı takip eden pırlıl pırlıl gençler ise daha gururlu ve öz güvenli. Japonya’ya döndükten sonra da her ziyaretimde o kadar şaşırıyorum ki, gerçekten burası benim yaşadığım aynı yer miydi diye.

Ama öylesine hızlı değişen toplumda ‘Türklerin Japonlara karşı olan sempatisi’ ise hiç değişmeden kalmış, hatta gittikçe güçlenmektedir. İki ülke arasındaki dostluk münasebetleri yaklaşık 120 yıl önce, Meiji İmparatorluğu dönemine kadar uzanır.

Yıl 1890, iyi niyet elçisi olarak Japonya’ya gönderilen Osmanlı gemisinin Tayfun sebebiyle Wakayama bölgesi Oshima’daki kayalıklarda parçalanmış ve bazı denizciler balıkçı kasabasında yaşayan halk tarafından kurtarılmış, tedavi edilmişler. Hatta fedakar Japon halkı tarafından toplanmış bağışlar ve maddi yardımlar ile İstanbul’a gönderilmişler. Bu hikaye Japonya’da çok bilinmiyor, ama Türkiye’de nesilden nesile aktarılan hikâyelerden biridir. Ona ilaveten Türkler, Japon halkını çalışkan ve mütevazı ve teknoloji olarak en üst seviyeye gelmesine rağmen geleneklerini koruyan toplum olarak tanırlar. Türkler de dünyanın sayılı ülkelerinden biri olan Japonya’nın yüksek teknolojisini de merak etmekte. Bu sebeplerle Türkler Japonlara karşı saygı ve sevgiyle bakarlar. Ben de orada yaşadığım süre içinde sadece ‘Japon’ olduğum için bir çok avantaj kazanmıştım. Bu Japonya’ya karşı olan sevgi, bir süre önceye kadar, sadece Türklerin Japonlara karşı olan platonik aşkı gibiydi. Fakat son yıllarda Türkiye’de gözlenen ekonomik büyüme, siyasi istikrar ise dünyanın dikkatini çektiği gibi Japonya’nın da ilgi ve merakını arttırdı. Yeni bir pazar olarak yatırıma giren firmalar da hızla çoğalmakta. Türkiye’yi ziyaret eden Turistlerin sayısı da artmaktadır.

Uzaktaki yakın dost Türkiye.. Değişken dünya şartları içinde, bu kardeş ülkenin yeniden değerlendirmesi ve iki ülke arasındaki dostluk münasebetlerinin daha çok pekiştirilmesini gönülden diliyorum.

遠くの友好国トルコ

小澤佳子

私をはじめトルコに住み始めたのは 1996 年のことです。トルコ語や歴史に興味があったから、というのが主な渡航理由ですが、長く住むようになったのは、親日国家で人々がフレンドリー、物価が安い、食べ物が美味しい、といった「住みやすさ」を感じたからでしょう。その頃のトルコ社会にはまだ、日本が忘れた精神的なゆとりと温かい人間関係がありました。もちろんその分インフラなどの開発は遅れており、色々な「不便さ」も経験せざるを得ませんでした……。

それがこの 10 年、大きく経済成長し開発の進んだトルコは、みるみるうちに変化を遂げています。イスタンブールや観光地の物価や地価は急騰し、いつの間にか摩天楼のような高層ビルが視界を遮るようになりました。真黒な煙をもくもく吐き出して行き交うディーゼル車はいつしか消え、道路には高級車やハイブリッド車が溢れています。海沿いに林立したお洒落なカフェやバーにたむろする若者達は、ファッションブルでさらに自信に満ち溢れています。日本へ帰国した今、時々現地に遊びに行く度にその変化にはいつも驚かされ、本当にここは私の住んでいたトルコだろうか？と目を疑います。

そんな激動の時代を経ても、今もなお変わらないものがあります。それはトルコ人の親日感情です。むしろ前よりももっと深まっていると言っても過言ではありません。両国の友好関係の起点は約 120 年前、明治時代に遡ります。

1890 年、明治天皇への親善訪問使節団として送られたオスマン帝国の軍艦が、台風のせいで和歌山県大島沖にて座礁し、541 人の船員が命を落とす事故に見舞われました。しかしその中の 69 人の船員は、大島の貧しい漁村の村民により救助され、手厚く介抱されました。そして日本人市民が集めた義援金と援助により無事日本の船でイスタンブールに送還されたのです。この話は日本ではあまり知られていませんが、多くのトルコ人の中で語り継がれています。

また、トルコ人は日本人を勤勉で誠実な国民性で、日本は秩序と伝統を守る社会だというイメージを抱いています。そして世界に誇る技術力などへの憧憬が、国民を日本びいきにさせているようです。そのおかげで住んでいる時も日本人だというだけで得をすることが多々ありました。この親日感情は一昔前まではトルコの片思いで終わっていたような気がしますが、最近トルコが経済成長し、中東の安定した民主主義国として世界的に認識されるにつれ、日本人のトルコに対する興味・関心も大きくなってきたようです。新しいマーケットとして、ここ数年は日本企業の投資や進出も急速に進んでいます。観光でもトルコを訪問する人が増えてきました。

遠くにいる味方、トルコ。激動の世界情勢の中で、この友好国が再評価されつつ、両国間の関係がますます深まってゆくことが期待されます。



2007 年より和歌山県串本町の大島沖で実施されたオスマントルコ軍艦海洋発掘プロジェクト。

筆者も関わっていた。(団長トウファン・トウラン氏提供)

2012年5月26日、KBS例行的烧烤大会时隔两年在樱之宫公园举行了。过了正午，在社长的带领下大家一起举杯，烧烤大会正式开始。社员代表向会长赠送鲜花。社长说：“今天的烧烤大会，首先要祝贺会长出院，其次是欢迎松仓进入KBS，还有，吕君明天要登记结婚了，今天高兴的事儿真多啊……”

那天，很多人都带着家属参加，我也带着妻子（当时还是未婚妻）一起参加的。我的妻子是日本人，她陪我一起走过毕业和求职的艰苦岁月，就在毕业后彷徨于不知何去何从的人生十字路口时，我有幸进入KBS就职了。这里，能实现自我价值，能兼顾工作和家庭。衷心感谢KBS，让我的人生翻开了下一页……在社员自我介绍中，我和妻子由衷地表达了对公司的无限感激之情，并决心今后更加努力工作。

给我印象非常深刻的，还有会长的关于住院抗癌经历的讲话。会长与病魔作斗争的顽强精神和乐观开朗的性格，让在场的所有人十分钦佩，倍受鼓舞；会长的“如果去做，就能成功！”这一精辟的人生格言，深深地激励着我们每一个人。衷心祝愿会长健康！

大家吃着香喷喷的烤肉，热闹地交谈聊天，孩子们开心地游戏玩耍，一片欢声笑语，烧烤大会在轻松喜悦的气氛中进行了两个多小时于下午3点多结束了。

这一天可谓“三喜临门”，大家都很开心。愿KBS的明天更加美好！也期待下一次的烧烤大会圆满进行。



2012年5月26日、KBS恒例のバーベキュー大会（BBQ）が2年ぶりに桜ノ宮公園で行われました。

正午過ぎ、社長の音頭で乾杯してBBQが始まりました。まずは社員たちから会長に花束を贈り会長の退院をお祝いました。次は社長が、「今回のBBQは、まずは会長の退院祝い、次は松倉さんの歓迎会、そして呂君は明日入籍する予定で、今日はおめでたいことがいろいろあります」とあいさつされました。

その日は沢山の社員が家族を連れて参加していました。私も妻（その日はまだフィアンセ）を連れていきました。私の妻は日本人です。彼女は私の卒業と就活の辛い日々を支えて一緒に歩いてきてくれました。卒業後、これからどうなるのかという人生の岐路に立った時、KBSに出会い就職することができました。KBSでの仕事はやりがいがあり、仕事と家庭の両立ができました。KBSのおかげで、私は人生の次の1ページをめくることができたのです。その後の社員自己紹介で私と妻は感謝の気持ちを述べました。これからも頑張り続けます。

もう一つ印象深かったのは会長の病院での闘病生活の話でした。会長の病魔に打ち勝つことができる強い意志と朗らかな性格に心から感服し、会長の「ハミオンテンダ（成せばなる）」という人生の格言には本当に励まされました。

みんなでおいしい焼肉を食べ、賑やかに話し合ったり笑ったり、子どもたちは楽しく遊び、午後3時を過ぎて終了しました。

今年のBBQは三つの喜びが重なって、楽しい一日でした。KBSがよりよい未来を迎えるようお祈りします。次回のBBQも楽しみにしています。



一生懸命、頑張ります！

営業企画部 松倉絵夢



皆さん、はじめまして。今年の5月からKBS社員の一人となりました、松倉絵夢です。この記事を書いている時点で、ちょうど入社から6ヶ月が経ち、ようやく仕事や職場にも馴染んできました。

私は、子供の頃から本を読むことが好きで、足しげく図書館に通っては本を読んできました。私が「翻訳」という言葉を知ったのは、小学校4年生のときです。図書館で、目

に付いた本棚の中から一番分厚い本を選び、内容もろくに確かめずその本を借りました。その本のタイトルは「ロビンソン・クルーソー」。イギリスの作家、ダニエル・デフォーの世界中で読まれている有名な小説です。この小説は数多くの出版社から、様々な翻訳本が出版されていますが、私がそのとき手に取ったのは、小学校高学年向けの「ロビンソン・クルーソー」でした。何も考えずに選んだこの本に私はすぐさま夢中になり、訳者のあとがきで「翻訳」という言葉に出会ったのです。

あれから月日は経ち、ご縁があって、翻訳・デザインを扱うこのKBSに入社し、多言語というものを身近に感じながら仕事をしていく中で、改めてことばの面白さを感じています。私の仕事は工務ですが、大学で学んだ英語の知識も活かすことができます。また、KBSでは、観光から交通、工業関連からエンターテインメント関連まで様々な分野を扱っていますので、多方面にわたる製品に携わることが出来て、とても刺激的です。普段の生活ではなかなか触れることのない言語に出会うことも多く、それもこの仕事の大きな魅力のひとつだと私は感じています。

まだまだ、分からない事も多く、困ったり焦ったり、せわしない日々ですが、しっかりとこなしていけるよう頑張りたいと思います!!

I'll do my best!

Hello everyone. My name is Emu Matsukura, and I joined KBC in May, 2012. At the time of writing this essay, six months have passed since I started work. At first I was a little nervous, but I'm gradually getting used to the new environment and work.

I have been fond of reading books since I was a child, and I spent most of free times in library. It was 8 years old that I knew the word "translation". One day, I picked the thickest book from the nearest shelf in the library and I borrowed it without confirming the contents. The book was "Robinson Crusoe" which is a world-famous adventure novel written by the famous English writer, Daniel Defoe. Needless to say, it is also very famous in Japan and it has been translated into Japanese and published many times by various companies. The "Robinson Crusoe" which I borrowed at that time was intended for children in fifth or sixth grade, however, the exciting story fascinated me at once and I learned about the translation from the afterword of translator.

Now, I am working surrounded by various languages at KBS and feel the profundity expressed in a word or language. As a person in charge of sales and coordinator of translation or DTP, I can make use of knowledge which I learned in university. It is interesting to engage in work required a wide knowledge such as tourism, traffic, industry, and entertainment. Furthermore, one exciting part of my job is getting contact with many languages which are hardly seen in daily life in Japan.

I am glad to have this motivating job. I am still inexperienced, but I will do my best!!

クイビーエス 2012 社員ブログ

<http://blog.kbsjapan.com/>

2010年から始まったKBS社員のブログ。日頃感じたことを書き綴っていますので、どうぞお気軽にアクセスしてみてください。今号でもナルゲ紹介用に文章を少し訂正し、いくつかをご紹介します。

立春の頃

【01月24日】李秀泰

大寒も過ぎて、まもなく立春だ。この頃が一番寒いらしい。東京では昨夜の雪で道路が凍ったためスリップ事故が多発したと、朝のニュースで報じていた。

立春といえば、去年11月の「生野コリアタウン共生まつり」で「済州立春タルノリ」を観た。済州島から来た済州ハン文化ネットワークの人たちが演じていた。

プログラムをみると、「1910年代まで立春の頃に合わせ、島内のムダン(巫女)のウドゥモリ(長)を選ぶために行なわれた。仮面劇が全国に発達した中であって、済州島固有の伝統民衆劇」だと書かれていた。

当初「鳳山タルチュム」の予定だったが、生野には済州島出身のコリアンが多いことからグループの意向で急遽変更されたらしい。

ユニークな仮面と踊り、済州島のサトゥリ(方言)に、ハルマン(おばあさん)たちから笑い声があがっていた。2世の私たちにも、雰囲気的にわかる。

公園の中ではハルマン(おじいさん)たちが一杯やりながら、「昔、チェジュにおった時は、あんなは観たことはなかったで」「あんな仮面とかは見たことないな」「それは知らんだけや」などと言いつつ。そういえば、チャンギ(将棋)を見ながら、やいやい横やりをいれてくる大人たちの雰囲気を感じた。

朝鮮市場、いまではコリアタウンという、その中にある小さな公園。済州島から来た若い人たちが歌い、踊り、その故郷・済州島をあとにして60年以上にもなる人たちがそれを観る。ピチピチした若い笑顔と、年輪のごとく深きざまれた老人たちの顔のしわ。あまりにも対照的な中に、長いながーい時間がよこたわっていたのを感じた。

陽が傾く頃、韓流ファンでござったがえす中を帰りながら、そんなことを思った。共生まつりは、まだまだ盛況で、別のステージからはK-POPのLIVEが聞こえていた。



私のおしゃれ着奮戦記

【03月29日】林芳子

テレビドラマ「カーネーション」を見ていて、若い頃洋裁を少ししていたことを思い出した。昭和40年代、既製品といえばブラウスやスカートで、スーツなどは仕立てなければならなかった。同僚の女子社員たちは、おしゃれなスーツやドレスを着ている。

私もとしごろ、一念発起、慰安旅行に着て行くスーツを自分で作ることにした。その頃は女性雑誌にのっているスーツなどは後部に型紙が載っていた。私は思いついてから実行に移すのに時間がかかるほうだ。初めてでも出来そうなデザイン、縫いやすくしかも気に入るものとあれこれ迷い、天神橋筋や心齋橋筋で布地を探し、ボタンも買う。母が大きな裁ちバサミを買ってくれた。縫い方は簡単に書いてあるが、用語が分からない。そうこうするうちにどんどん日は近づく。



最初のスーツは、衿なし、ボタンなしのボレロ風の上着に、ワンボックスのスカート。それでも裏地をつけて、袖が腕の形についたときの感激、うれしかった。スカートにも裏地をつけた。

着ていく日の前夜は、たいてい徹夜で、すそかがりなどは朝にしようとしてしまふ。ところが、朝起きると、スーツがハンガーに吊るされている。母が見かねて、すそをかがり、アイロンをかけて仕上げてくれていたのだ。そんなことが何度あったろうか。

そのころの写真を見ると、けっこうあれこれ作っていたんだなあ。そでがつったり、ボタンホールがまがつたり。でも自分で作ったという満足感でどこにでもよく着て行っただけ。もちろん、デートにも。

故郷・無錫の桜

【04月15日】呂咏鴻

桜満開の季節ですね。今年は桜の咲くのがちょっと遅かったですが、やっぱりきれいですね。私も先週土曜日に大阪城と桜ノ宮公園に花見に行ってきました。私は何を投稿したらいいかなあと思って、故郷の無錫も今ちょうど桜満開ですから、父に写真を撮りに行ってもらいました。日本の桜と匹敵できるのではないかと思います。



私の故郷の無錫は、関西と似た気候ですが、今年の春は関西よりやや早く来たのです。日本人作曲・作詞「無錫旅情」で日本人に馴染まれている人気のある観光地と、日系企業集積地としての無錫は中国の第2の淡水湖・太湖(琵琶湖の4倍)の東北のほとりにあります。無錫には太湖のほとりに1988年から日本人の手で植えられた5000本30品種、面積3万平米の「中日櫻花友誼林」があります。今は周辺の桜を含めて合計3万本、68品種10万平米の桜があります。毎年3月末から4月上旬にかけて桜が満開です。今年3月24日～4月30日は盛大な「無錫国際櫻花節(桜祭り)」が開催されています。NHK上海支局も現地取材したそうです。

久しぶりの一眼レフ

【07月02日】上間行洋

今年の正月、長い間義父(妻の父・写真愛好家)に貸してあったキャノン製の一眼レフカメラが帰ってきた。ここ20年くらいの間は、子どもたちの成長を残そうと、行事の度にビデオカメラやデジタルカメラを使ってきたので、その間一眼レフは殆んど用無し状態だった。子育ても一段落して、今やビデオカメラも全く使う事がなくなっているので、久しぶりに一眼レフの重いシャッター音が聞いてみたくなり、撮影の機会をうかがっていた。

1月に清水寺(初詣)、3月に京都御苑(梅)、4月の初旬に銀閣寺(桜)へと、一眼レフを持参して、色んな場所でシャッターを押した。ちょうど銀閣寺の大文字の大きな字を背景にシャッターを押そうとした時に、36枚のフィルムを使い終わったので、フィルムを入れ替えようと巻き戻しにかかる、バリバリバリッといやな音がした。「何じゃコリヤ」と、そっと蓋を開けてみるとフィルムがくしゃくしゃになって千切れかかっている。「どうなんの?」と家内、「あかんやろナア、こうなったら」。それでも、さんざんポーズをとってモデルを気取ってきただけに、まだ何か言いたそうである。永いこと使っていなかったので、フィルムの入れ方も巻き戻しのやり方も自信を持って間違っていないとは言い切れない。気を取り直して、日向の中で新たなフィルムを装填する。そしてまた、あちこちでシャッターを押した。

やっとこのフィルムを使い終わって現像に出した。ずいぶん久しぶりなので、どんな具合に撮れているか非常に楽しみにしていた。ところがである。出来上がったものを見てみると、そのほとんどに変な光が入っていて、まともに写っているものは3枚ほどしかない。何ということであろうか。何ヶ月もかけて撮影したものがこの結果とは、我ながら無様極まりない話である。

しかし、これで終わるわけにはいきまい。必ずリベンジしなければいけない。次こそはきつとまともな写真を撮るぞと気合を入れ直してみるものの、原因もはっきりしない状態ではまた失敗するかも知れないという思いも正直ある。いやいや、次こそきつと上手くいく。いかなばならない。いいや、必ずいつて見せよう。

ShrineがTempleに変わる?

【07月13日】高 允 男

先日、伊勢神宮の事務をつかさどる神宮司庁が、神宮の英語訳である「Shrine」を「Shinto Temple」に変える検討をしているというニュースが、毎日新聞サイトにありました。以下引用――。

【伊勢神宮:英訳は「Shinto Temple」に?】

20年に1度の式年遷宮を来秋に控え、三重県伊勢市の伊勢神宮の事務をつかさどる神宮司庁(同市)が、「Shrine」などと従来訳してきた神宮の英語名称を「Shinto Temple」に変更する検討を始めたことが分かった。多くの英和・和英辞典は神社をshrine、寺をtempleとし、中学校でも最初にこう習う。違和感を持つ人も出そうだが、神宮司庁は「外国人に神宮、神道を分かりやすく説明するための検討。専門家の意見を聞きたい」としている。(大野友嘉子)

日頃観光パンフレットの翻訳などで、それぞれ観光スポットとして神社の翻訳は数多くしていますが、もし「Shrine」が「Shinto Temple」になったら、これまでの数多くのパンフレットや看板も作り替えることになるんでしょうか……。

混乱するからShrineのままでもいいんじゃないかと思う反面、会社としては、名称変更してもらった方が仕事が増えるかもという皮算用をしてしまう……。シレンマです。

美しい。素晴らしい。

【10月05日】古謝 義正

先日、お休みを頂き山陰地方へ行ってきました。

4年ほど前に社員旅行でも行ったこの地域ですが、穏やかな景色をまた拝んでみたいと思ひ、再訪しました。

美しい。素晴らしい。食べ物も新鮮な魚介類や、出雲そば、梨と、とても堪能できました。



鳥取砂丘→砂の美術館→出雲大社→足立美術館と回りましたが、特に僕の中で印象に残ったのが「砂の美術館」。

「砂の美術館」とは、鳥取砂丘の一角に野外美術館として建てられた砂の彫刻「砂像」を展示している美術館です。毎年テーマを変え世界各国の砂像彫刻家が、創り上げた作品はとても繊細で、圧巻です。

「今年のテーマはイギリス【2013年1月6日まで】」“のり”を使わず、水で固めたただで見事に表現した作品。今にも動き出しそうで、砂としての儂げな材質をここまで巧みに表現出来るとは……感動しました♪

訪れる機会があれば、ぜひおすすめです。

美味しいニオイ?

【10月04日】横澤 寅男



会社の帰り道、家に近づくところからかい匂いがしてくる。晩御飯の支度だろう。このいい匂いというのは美味しい匂いだ。なんだか急にお腹がすいたと思うようになる。美味しい匂いを嗅げばそれを食べたいくなるのは、みなさん感じたことがあるでしょう。でも逆に嫌な臭いを嗅いでしまったら……。

先月KBSまだんの研修旅行で韓国に行った時、納豆鍋を食べました。そのお店は北村にある別宮食堂。地下鉄3号線安国駅の1番出口から北に少し歩き、左に折れて細い路地裏にそのお店があります。お店の門をくぐると急に鼻をつくニオイ。私の中では、美味しい匂いとは到底かけ離れたニオイだ。さて一体どんな味がするのだろう。

お店の中にいるとだんだんニオイにも慣れてくる。写真は、その納豆鍋。一口食べてみる。取り立てて美味しいとは思わないし、ちょっと薄味に感じる。だがその後食べているうちに、薄味に感じた一口目は違ひ、素材の甘みを感じられる。まろやかでとてもバランスがとれた味わいだ。もうニオイは気にならない。なんだかとても得した気分。美味しい。次機会があれば、また食べてみたいと思う味に変わっていた。しかし、食事が済んでお店を出るとき、またちょっと鼻をつくニオイ。どうやらニオイと味は一致しないようだ。

韓国旅行に行った時の様子は、ハングルネットのブログに載せています。

<http://www.hangul-net.com/blog/>

台湾の漢字使用についての感想

【10月23日】呂 咏 鴻

台湾の漢字使用について、ここで私の感想を申し上げます。台湾で使用されている漢字は繁体字というもので、古代からそのまま簡略化されていない文字です。それに対して大陸では「漢字簡化運動」と「言語文字使用規範化改革」などがあり、異体字の非規範使用は禁止されたのです。

異体字とは標準の字体と同じ意味・発音を持つが表記に差異がある文字、手書きによる個人差から生じた新字・旧字(簡体・繁体)の違いがある字です。異体字は漢字の源流などの知識で言えば、間違いやミスではありません。ですが、台湾では簡略化されておらず異体字も数多く存在し、社会では意識もされていません。

最近仕事の中で以下のような事がありました。

例1:「真珠」、「珍珠」、「眞珠」

この3つの書き方は全部日本語の「真珠」という単語の台湾語訳です。台湾のサイトではそれぞれ検索で出てきます。数は違うが全部使われているのです。それに対して、大陸では「珍珠」に統一され、「眞」の字は使わないのです。

例2:「臺灣」、「台灣」

これが典型的な例です。台湾教育部は「臺」と定めています。しかし、台湾行政院長吳敦義氏は「臺」について、日常生活の手書きしやすいように、わかっただけ、と述べたそうです。台湾では2つの書き方が使われ、人々場合によって変わります。

以前台湾人とこの話題について議論したことがあり、一部の言葉は台湾島内でも確かに言い方がまだ統一されていないと言われました。

「使用混乱気味」「規範性統一性の不足」が解消するまでは校正も大変になるでしょうが、頑張ります。

45周年記念クリアファイル作成!



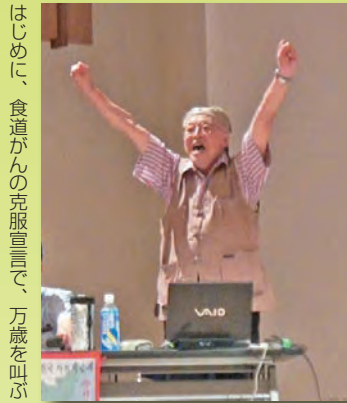
創業45周年の記念品として、クリアファイルを作成いたしました。「あらゆる国の人々が、互いに理解しあえる世界をつないでいきたい」との願いを、月桂冠のマークで表現し、すっきりとしたデザインに仕上げました。いつも皆さまの傍らにて、未永くお仕事のお役に立てていただければ幸いです。

創業45周年を迎えることができましたのも、ひとえに皆さまのご愛顧とご支援の賜物と心よりの御礼を申し上げます。50周年に向け、社員一同いっそう業務に邁進いたします。なにとぞ倍旧のご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



ソウルと大阪の狭間で講演会

大阪商工会議所「異業種交流会フォーラムアイ」主催、8月例会「平和を考える勉強会」が、2012年8月24日（金曜日）午後6時30分から、大阪東成区民センターにおいて開催された。今回は弊社高仁鳳会長が「ソウルと大阪の狭間で」と題して講演を行った。太平洋戦争・朝鮮戦争に遭遇して生きた自身の赤裸々な半生を語り、平和の大切さを力強く訴えた。多くの映像をパワーポイントを操作しながらの講演に、参加者の皆さんは熱心に聴き入ってくださった。



はじめに、食道がんの克服宣言で、万歳を叫ぶ

■差し上げます
当日配布の資料をご希望の方に差し上げます。氏名、社名、所属、郵便番号、住所、電話・FAX番号をご記入の上、FAX (06-6711-2804) にて、総務部松本までお申し込みください。1人1部とし、在庫がなくなり次第締め切らせていただきます。お電話では受け付けませんので、ご了解のほどよろしくお願いいたします。



弊社創業者 取締役会長 高仁鳳儀、2012年12月12日、食道がんのため永眠いたしました。（享年71歳）がんと診断されて約1年間、自身のがんであることをホームページやフェイスブックを通して公開し、多くの方々から温かい励ましをいただきました。最後まで命の灯を燃やし闘い抜きました。ここに生前故人に賜りました公私にわたるご厚誼に対し衷心より御礼申し上げますとともに、謹んでご通知申し上げます。ありがとうございました。

ケイビーエス株式会社
代表取締役 高 允 男

【個人情報の取扱について】
この社内報「ナルゲ」は、お取引先・外注先・協力関連先の皆様にお送りしております。ケイビーエス株式会社は、お客様の個人情報を合理的かつ適切に管理し、業務の目的以外に使用いたしません。また、法令に基づき開示が義務づけられるなどの特段の事情がない限り、第三者に開示・提供することはありません。当社が管理するお客様自身の個人情報について、お客様から内容確認、修正・更新・削除の要請を受けた場合には、お客様の意思を尊重し、合理的な範囲で必要な対応をいたします。当社は、お客様の個人情報の保護に関する法令・規範を遵守すると共に、その取り扱いについては、適宜その見直しと改善に努めます。

発行日 2013年1月1日

発行／編集 ケイビーエス株式会社
〒544-0033
大阪市生野区勝山北2-16-17
電話 06-6716-5665
FAX 06-6711-2804
E-mail info@kbsjapan.com
URL http://www.kbsjapan.com/

— 教えてもらった事 —

総務部 松本 佳代子

8月24日の大阪商工会議所異業種交流会フォーラム・アイ主催、「平和を考える勉強会」に参加しました。

在日3世の私。実は、自分の祖父母からどういった経緯で日本にきたのか聞いたことがありません。私が現在知っている情報は、両親が祖父母から聞いた話なのです。私自身が自分のルーツに興味を持ったのが20代で、それ以前に祖父母は亡くなっていますので聞く機会もなかったのですが、祖父母たちも自分の苦労話を孫に聞かせたくなかったのかもしれない。

勉強会の資料として用意した冊子に書いてあった人民軍と国連軍のことをもう少し詳しく知りたく、会長にお尋ねすると、わかりやすく教えて下さいました。会長から教えてもらった韓国の歴史。できることなら、自分の祖父母からも聞いてみたかったです。「本当に戦争は嫌ですね」と言った私に「経験している僕はもっとそう思うよ」とおっしゃいました。

食道がんの治療を、ずっとがんばっていらっしゃった姿を間近で見ているので、舞台でお話をしている会長を見て少し涙ぐんでしまいました。きっと、あの日集まって下さった皆様も同じ気持ちだったと思います。

自分の祖父母からの話は聞けませんでした。KBSに入社して会長から話が聞けたことは、とても貴重でした。そして、会長を陰日向に支えていた専務の姿も「妻」として私のお手本となりました。

もっともって会長のいろんなお話を聞いてみたいです。そのためには長生きして、いろんな所へ飛び回ってほしい。あ、でもそうすると専務が大変かしら。

年末年始休業日のお知らせ
 過ぐる年も格別のお引立てとご愛顧を賜り、まことにありがとうございました。
 年末年始を下記の通り休業させていただきます。
 新しい年も、なにとぞご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

12月29日（土）～1月6日（日）
 1月7日（月）午前中営業、1月8日より平常通り営業いたします。

編集後記

●正月休みが終わる時は「1年って長いな～」と思っていましたが、今年ももう終わり。大人になると1年があっという間に過ぎていきます。2013年とは何か起きるのか、何事もなく過ぎていくのか…私としては何事もなく過ぎて心安らかに日々を過ごしたいです。（稲木）

●今年の10月、私は来日5周年、KBSに入社して2年目を迎えました。また、結婚して半年間が経ちました。他の来日年数の長い皆さんの中国人や会社の同僚たちにとって、これらの年数は短すぎるとは思いますが、私にとって今年からは本当に人生の節目でした。（呂）